

研究主題 論理の展開を工夫し、資料を適切に引用して、説得力のある文章
を書く能力を育てる国語科学習指導の在り方
— 中学校第3学年「観察・分析して論じよう」における引用し
た根拠を明確にして批評文を書く学習活動を通して —

小美玉市立美野里中学校 教諭 仲田 浩二

研究の概要及び索引語

論理の展開を工夫し、資料を適切に引用して、説得力のある文章を書くためには、構想段階での思考の整理が大切である。本研究では、中学校第3学年「観察・分析して論じよう」において、引用した根拠を明確にして批評文を書く学習活動を通して、論理の展開を工夫し、資料を適切に引用して、説得力のある文章を書く能力を身に付ける国語科学習指導の在り方について追究した。

索引語： 論理の展開，引用，引用した根拠，批評文

1 主題設定の理由

中学校学習指導要領解説国語編（平成20年9月）（以下「解説」という。）では、第3学年「B書くこと」の指導事項イに、「論理の展開を工夫し、資料を適切に引用するなどして、説得力のある文章を書くこと。」とあり、さらに、「第3学年では、選んだ資料を『適切に引用する』ことを重視して指導する。」とある。また、「全国学力・学習状況調査の4年間の調査結果から今後の取組が期待される内容のまとめ」（平成24年9月）では、「自分の意見や考えに説得力をもたせるためには、中心となる主張を明確にすることとともに、図や表、統計や調査のデータなど具体的な資料を有効に活用して主張の裏付けとなる根拠を示すことが大切である。」と示されている。これらのことから、論理の展開を工夫し、資料を適切に引用して、説得力のある文章を書く能力を育てることが重要であると考える。

本学級の生徒に対して、「なぜ正しい言葉遣いが必要なのか」をテーマにして、「複数の資料の中から、必要な情報を引用して、読み手を説得するための文章を書きなさい。」という実態調査（平成27年10月16日実施、第3学年3組33人）を行った。その結果、頭括型、尾括型、双括型や反論の先取りなど、論理の展開を工夫し、資料からの引用を自分の考えにつなげていた生徒は1人であった。また、論理の展開を工夫したが、資料からの引用ができなかった生徒は14人であった。論理の展開の工夫や資料からの引用ができずに、自分の考えのみを書いた生徒は18人であった。これは、これまでの書くことの指導において、読み手を説得するために、論理の展開を工夫して書いたり、資料を引用して書いたりする学習活動が不十分であったことに起因する。そのため、これからは、論理の展開を工夫し、資料を適切に引用して、説得力のある文章を書く指導が必

要であると考え。

そこで、本研究では、中学校第3学年「観察・分析して論じよう」の学習において、「社会生活の中からテーマを決めて、批評文を書く」という言語活動を行う。まず、モデル文を活用して、筆者が引用した根拠について考え、引用のきまりや引用のよさについて理解する。次に、引用部分と自分の考えのつながりを吟味する活動を行い、自分の考えと引用部分につながりがあり説得力のある効果的な引用になっているかをディスカッションする。そして、論理の展開を工夫し、引用した根拠を踏まえて批評文を書く。その際、構想メモを活用し、結論部分や引用部分の配置を工夫する。このように、引用した根拠を明確にして批評文を書く学習活動を行えば、論理の展開を工夫し、資料を適切に引用して、説得力のある文章を書く能力が育つであろうと考え、本主題を設定した。

2 研究のねらい

中学校第3学年「観察・分析して論じよう」における引用した根拠を明確にして批評文を書く学習活動を通して、論理の展開を工夫し、資料を適切に引用して、説得力のある文章を書く能力を育てる国語科学習指導の在り方を追究する。

3 研究の仮説

中学校第3学年「観察・分析して論じよう」において、引用した根拠を明確にして批評文を書く学習活動を行えば、引用部分と自分の考えのつながりを吟味する視点をもつことができ、論理の展開を工夫し、資料を適切に引用して、説得力のある文章を書く能力が育つであろう。

4 研究の内容

(1) 基本的な考え方

ア 論理の展開を工夫し、資料を適切に引用して、説得力のある文章を書く能力について

解説では、「論理の展開を工夫して書く能力」について、「書き手の考えが説得力をもって伝わるように、材料の選び方や文章全体の構成、記述の仕方などを工夫して書く能力のことである。その際、これまでに身に付けてきた書くことの能力が、総合的に発揮されるようにする。」と示されている。さらに、「適切に引用する」ことについて、「自分の考えの根拠としてふさわしいかどうかについて検討したり、引用部分を明らかにした上で、資料が伝えたいことと自分の考えとの関係について補足したりすることが重要である。」と示されている。一方、説得の文章を書かせることの意義について、大内善一は『思考を鍛える作文授業づくり』の中で、「こちらの考え方を相手に知的・論理的に認めさせるために、より確かな思考が要求される。自分の意見・主張を確かな根拠に基づいて論じる技術が要求される。」と述べている。以上のことから、本研究では、論理の展開を工夫し、資料を適切

に引用して、説得力のある文章を書く能力を、頭括型、尾括型、双括型の特性を生かして構成を考え、引用した根拠を明確にして読み手を納得させる文章を書く能力と捉えた。

イ 論理の展開を工夫し、資料を適切に引用して、説得力のある文章を書く能力を身に付ける過程について

論理の展開を工夫し、資料を適切に引用して、説得力のある文章を書く能力を身に付ける過程を図1のように表した。本研究では「社会生活の中からテーマを決めて、批評文を書く」という言語活動を設定した。まず、モデル文を活用し、引用のきまりや引用のよさについて理解できるようにする。次に、ディスカッションする活動を通して、引用部分と自分の考えのつながりを吟味し、効果的な引用について考えを深めることができるようにする。そして、構想メモを活用して、論理の展開を工夫し、引用した根拠を踏まえて、批評文を書くことができるようにする。このような活動を通して、論理の展開を工夫し、資料を適切に引用して、説得力のある文章を書く能力が身に付くと考える。

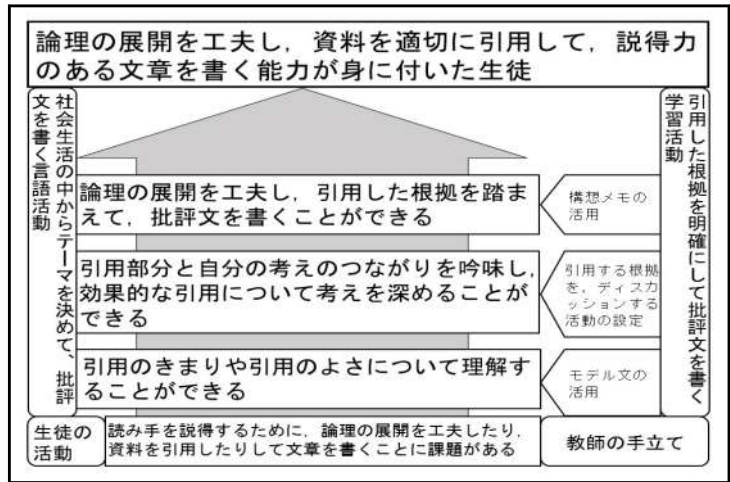


図1 論理の展開を工夫し、資料を適切に引用して、説得力のある文章を書く能力を身に付ける過程

次に、ディスカッションする活動を通して、引用部分と自分の考えのつながりを吟味し、効果的な引用について考えを深めることができるようにする。そして、構想メモを活用して、論理の展開を工夫し、引用した根拠を踏まえて、批評文を書くことができるようにする。このような活動を通して、論理の展開を工夫し、資料を適切に引用して、説得力のある文章を書く能力が身に付くと考える。

ウ 論理の展開を工夫し、資料を適切に引用して、説得力のある文章を書く能力が身に付いた生徒の姿

表1 論理の展開を工夫し、資料を適切に引用して、説得力のある文章を書く能力が身に付いた生徒の姿

論理の展開を工夫し、資料を適切に引用して、説得力のある文章を書く能力が身に付いた生徒の姿を表1のように

- a 引用のきまりや引用のよさについて理解することができる。
- b 引用部分と自分の考えのつながりを吟味し、効果的な引用について考えを深めることができる。
- c 論理の展開を工夫し、引用した根拠を踏まえて、批評文を書くことができる。

捉えた。本研究では、表1に示した生徒の姿を目指すこととする。

エ 引用した根拠を明確にして批評文を書くことについて

富山哲也は『国語教育』の中で、根拠を明確にして、自分の考えを具体的に書く指導の工夫について、「引用した箇所と自分の考えとの関連、根拠として取り上げた内容の妥当性など、書いた文章を複数の観点から見直すことが重要である。」と述べている。また、鶴田清司は『実践国語研究』の中で、説得力のある表現をどう指導するかについて、「説得力のある表現のためには、根拠となる事実やデータを自分の既有知識・経験と結びつけて解釈・推論すること（理由づけ）が大切である。」と述べている。一方、解説には、「『批評』とは、対象とする事柄について、そのもののよさや特性、価値などについて、論じたり、評価したりすることである。(中略)書き手の主観だけでなく、客観的、分析的に物事を見つめる姿勢をもたせることが必要である。」と示されている。批評文に説得力をもたせるためには、論理の展開を工夫することや、客観的、分析的に

物事を判断することが必要である。本研究では、引用した根拠を明確にしていく過程で、引用部分の配置を考えたり、引用部分と自分の考えのつながりを吟味したりすることができると思う。これらのことから、主題に迫るために、引用した根拠を明確にして批評文を書くことが有効であると思う。

(2) 主題に迫るために

ア 論理の展開を工夫し、資料を適切に引用して、説得力のある文章を書くことに関する生徒の実態

図2は、論理の展開を工夫し、資料を適切に引用して、説得力のある文章を書く能力に関する実態調査である。調査の結果、論理の展開を工夫し、資料を適切に引用して書いた生徒は1人、論理の展開を工夫したが引用ができなかった生徒は14人であった。また、自分の考えのみを書いた生徒は18人であった。そこで、これからは、論理の展開を工夫し、資料を適切に引用して、説得力のある文章を書くための手立てが必要であると思う。

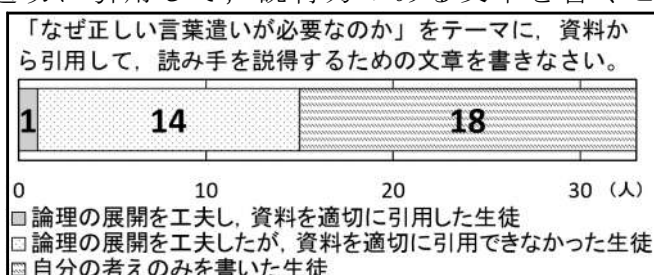


図2 論理の展開を工夫し、資料を適切に引用して、説得力のある文章を書くことに関する実態調査
(平成27.10.16実施 小美玉市立美野里中学校第3学年3組33人)

イ 引用した根拠を明確にして批評文を書く学習活動について

(ア) モデル文を活用して引用した根拠を考える活動

引用を取り入れる際のポイントとして、原文をそのまま抜き出すこと、出典を明らかにすること、客観性や信頼性の高い資料を選ぶことなどのきまりをまとめた「引用ガイド」を手がかりに、モデル文を読む。引用のよさについての理解を促すため、複数のモデル文を提示する。資料1のモデル文では、まず、生徒が

資料1 引用した根拠を考えるモデル文

モデル文から学ぼう！

◎次のモデル文は、どんな作戦で読み手を納得させようとしているでしょうか。だれに向けて(相手) 小学六年生 三年 稲 氏名
何のために(目的) 中学校生活に対して前向きになつてもらうために

1 「学問は、より多くの自由を獲得するための作業だ。」
(朝日新聞デジタル2009年2月)
この言葉は、2008年にノーベル物理学賞を受賞した益川敏英さんの言葉です。

2 「勉強って何のため」と考えることは誰でもあることですが、「勉強」とは、「学問や技術を学ぶこと」(広辞苑)とあります。学問と勉強とは似た言葉です。中学校生活での勉強も学問に入ると思っています。

3 つまり、勉強することで自分を高め、その結果、多くの自由を手に入れることができるということではないかと考えます。

4 誰でも新しい生活をスタートするのは不安があります。

5 しかし、自分の将来のためにも、自分の可能性を広げるためにも、勉強は大切だと思います。

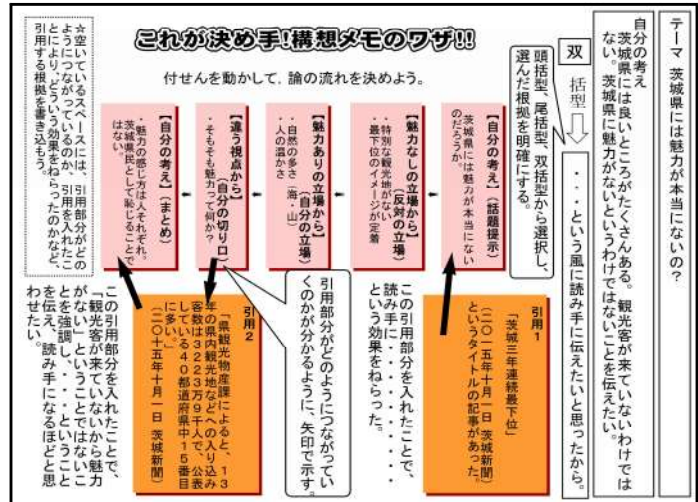
小見出しや段落相互のつながりを書き込む。そして、説得力のある引用になっているか、モデル文の引用のよさを評価しながら読む活動を行う。このように、モデル文について説得力のある文章になっているかを評価しながら読み、筆者が引用した根拠を考えることで、引用のきまりや引用のよさについて理解することができるようになると思う。

(イ) 引用する根拠を、ディスカッションする活動

資料2 (p. 5) は、構想メモの例である。まず、付箋を操作しながら、論の流れを考える。次に、自分で集めてきた引用部分が、論の流れの中でどのようにつながるのか、引用部分を入れたことでどのような効果をねらうのかなど、引用する根拠として記入する。そして、構想メモを基に、デ

ディスカッションする。その際、チェックシートを手がかりにして、引用する根拠に説得力があるかについて、相互評価をする。このように、引用する根拠を、ディスカッションする活動を設定して、引用部分と自分の考えのつながりを吟味し、効果的な引用について考えを深めることができるようになる

資料2 構想メモの例



(ウ) 構想メモを活用して批評文を書く活動

まず、頭括型、尾括型、双括型のいずれかを選択して論の流れを決定する。次に、説得力をもたせるために引用部分をどこに配置するのが効果的かを考え配置する。そして、引用部分と自分の考えがつながるように批評文を書く。文章にしていく際に、構想メモを活用し、引用した根拠が読み手に伝わるように書いていく。また、段落相互のつながりにも着目し、接続語を適切に用いるようにする。このような活動を行えば、論理の展開を工夫し、引用した根拠を踏まえて、批評文を書くことができるようになる

(3) 授業の実践

ア 単元の指導計画

(ア) 単元 社会生活の中からテーマを決めて、批評文を書こう

(「観察・分析して論じよう」)

(イ) 指導と評価の計画 (7時間扱い)

次	時	学習活動	評価規準
一	1	モデル文を活用して、引用した根拠を考える。単元の見通しをもち、社会生活の中からテーマを決めて、批評文を書くことを知る。	・引用について関心をもち、説得力のある批評文を書こうとしている。【関】 ・引用のきまりや引用のよさについて理解している。【書】
二	1	批評文を書くための分析・比較・判断の流れを理解する。【教科書を活用した共通課題】	・対象について評価できる点と評価できない点を分析し、自分なりの判断を下している。【書】
	2	自分の考えとつながりのある引用になるように、引用部分を探す練習をする。【教科書を活用した共通課題】	・自分の考えとつながる引用部分を探して、説得力を高めるための引用にしようとしている。【関】
	3	社会生活の中から決めた課題について、分析・比較・判断をし、構想メモを書く。(図書室で実施)	・判断や評価の理由を明確にし、資料から自分の考えとつながる引用部分を探し、構想メモを書いている。【書】
	4	引用する根拠を、ディスカッションする活動を行い、構想メモを書き直す。	・資料を適切に引用し、説得力のある文章にするために、構想メモを書き直している。【書】
三	1	構想メモを基に、引用した根拠を踏まえて、批評文を書く。	・説得力を高めるために、論理の展開を工夫し、資料を適切に引用して批評文を書いている。【書】
	2	批評文を読み合い、互いのよさを評価する。	・読み手に自分の考えが伝わるように、適切な語句を選択している。【書】

イ 本時の指導

(ア) 目標

論理の展開を工夫し、資料を適切に引用して、説得力のある文章にするための構想メモを書くことができる。

(イ) 準備・資料

構想メモ，付箋，チェックシート，ホワイトボード，マーカー

(ウ) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点と評価（評価は㊦）
<p>1 本時の学習課題をつかむ。 相手を納得させる構想メモになっているか，ディスカッションして確かめよう。</p> <p>2 前時までの学習を振り返る。 キーワードの確認 説得—納得 引用—客観⇔主観，補足 批評</p> <p>3 批評文の構想をまとめる。 【手立ての条件】 ・引用を取り入れる。 ・論理の展開を工夫する。</p> <p>4 ディスカッションの進め方を確認する。 【流れ】 ①テーマの確認 ②論理の展開の工夫 ③引用する根拠の説明 ④意見交換</p> <p>5 ディスカッションする。 (1) グループで，ディスカッションする。 ・〇〇新聞に掲載されていた記事を引用した。この記事には具体的なデータがあるので説得力につながると考えた。 ・専門家の言葉を引用し，自分の考えに説得力をもたせた。 ・引用部分を最初に配置することで，読み手を引き込むような効果をねらった。 (2) 全体で，ディスカッションする。 ・引用する時は，信頼性の高い資料であるかを考えた方がいい。 ・自分の立場だけでなく，相手の立場についての引用も効果的だ。 ・引用する内容は，相手や目的によって変わる。</p> <p>6 構想メモを完成させる。 ・引用の量が多いと指摘されたので，ポイントをしばって引用する。 ・自分の考えと引用部分のつながりが分かりにくいので補足を入れる。 ・あまり関係のない部分だと分かったので違う引用部分に入れ替える。</p> <p>7 本時の振り返りをする。 ・引用は自分の考えとのつながりが大切。 ・相手を納得させるために，引用部分や結論部分をどこに配置するかが重要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・黒板掲示物を貼り，本時の学習課題を読み，本時の流れを確認して，見通しをもてるようにする。 ・「納得」を辞書で調べるよう指示する。 ・前時までの学習で出てきたキーワードを確認して，学習内容を振り返る。これまでに確認したキーワードをディスカッションで活用するよう助言する。 ・今回の学習のポイントである，説得，引用，批評の言葉を整理できるようにする。 ・付箋を動かしたり，候補から引用部分を選択したりして，構想メモをまとめるように指示する。 ・引用する根拠について，構想メモに書き込むよう助言する。 ・批評文の構想が，相手を納得させるものになっているかを確認するためにディスカッションすることを伝え，発表の準備ができるようにする。 ・チェックシートを配付し，相互評価の観点を確認させることで，ディスカッションのポイントを理解できるようにする。 ・構想メモが完成していない生徒は，説得力をもたせるために，引用をどのように取り入れれば効果的か，積極的に質問するよう助言する。 ・発表者は，構想メモをグループの友達に見せながら，説得力のある構想になっているかをディスカッションを通して確認できるようにする。 ・引用部分と自分の考えとのつながりがあり，説得力のあるものになっているか相互評価をしながら，ディスカッションを進めるようにする。 ・引用の仕方の工夫で参考になったことを，グループごとにホワイトボードにまとめて発表するよう指示する。 ・ホワイトボードに出た引用のポイントを，「引用ガイド」に記入するよう指示する。引用の仕方について全体で一般化することで，次時に行う，批評文を書く際に活用できるようにする。 ・グループでアドバイスされた点や，全体で確認した引用のポイントを踏まえて，構想メモを仕上げる。加筆，修正した所を分かりやすくするために，色ペンを使うよう指示する。 ㊦資料を適切に引用し，説得力のある文章にするために，構想メモを書き直している。 ■（観察，構想メモ） ・引用について学んだことを振り返らせるようにする。 ・次時は，批評文を書く活動を行うことを伝え，本時とのつながりを意識できるようにする。

ウ 授業の記録

- 抽出した生徒
- A 国語の学習に対する意欲が高く、論理の展開を工夫し、資料を適切に引用して、説得力のある文章を書くことができる。
 - B 国語の学習に対する意欲が高く、説得力のある文章を書くために、論理の展開を工夫して書くことはできるが、資料を適切に引用して書くことに課題が見られる。
 - C 国語の学習に対する意欲があるが、論理の展開を工夫し、資料を適切に引用して、説得力のある文章を書くことに課題が見られる。

学習の流れ	全体の様子	抽出した生徒の様子		
		A	B	C
1 本時の学習課題をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> 姿勢よく教師の話の話を聞いている。 黒板掲示物を見て、本時の学習活動を確認している。 	<ul style="list-style-type: none"> 顔を上げて、姿勢よく教師の話を聞いている。 教師の説明に合わせて、前時までのプリントを見直している。 	<ul style="list-style-type: none"> 黒板に姿勢を向け教師の話を聞いている。 構想メモを見ながら、学習課題を確認している。 	<ul style="list-style-type: none"> 顔は黒板を向いているが、視点は定まらず、周囲を気にしながら教師の話を聞いている。
2 前時までの学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> 本単元で調べてきたキーワードを思い出そうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時までのプリントを見直し、キーワードを思い出している。 	<ul style="list-style-type: none"> 黒板を見ながら、思い出そうとしている。一人で考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 思いついたキーワードを大きな声で発表している。
3 批評文の構想をまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ディスカッションに向けて、構想メモを見直している。 	<ul style="list-style-type: none"> 付箋を動かして、論理の展開を工夫している。<u>構想メモに矢印と番号を付け足している。引用する根拠を書き込んでいる。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 探してきた引用部分の候補が三つあり、すべてを取り入れようとしている。引用する根拠を書き込んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 探してきた引用部分の候補はあるが、どこにどの引用部分を入れたらいいかが分からずにいる。引用する根拠が書けていない。
4 ディスカッションの進め方を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 4人グループになりチェックシートを確認している。 	<ul style="list-style-type: none"> チェックシートを見ながら、自分の構想メモを確認している。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師の説明をうなずきながら聞いている。 	<ul style="list-style-type: none"> チェックシートを読んでいる。発表の順番を気にしている。
5 ディスカッションする。 (1) グループで、ディスカッションする。	<ul style="list-style-type: none"> 構想メモのワークシートを開き手に向けて発表している。 チェックシートにあるディスカッションの流れに従い進めている。 ストップウォッチを使い、時間を意識してディスカッションしている。 発表者に体を向けて話を聞いている。 頭括型、尾括型、双括型のどれを選択したのか、理由とともに発表している。 引用する根拠が説得力のあるものになっているかを話し合っている。 「引用ガイド」を活用している。 	<ul style="list-style-type: none"> テーマ「高校を義務教育化すべきか」に対する評価の理由を発表し、どういう批評文にしたいのかを伝えている。 「尾括型で考えた。双括型と迷ってたが、最初に話題のみを提示し、テーマについて知ってもらい、読み手にも考えてもらいながら、最後にまとめた方が説得力があると思うから、尾括型にする。」と発言する。 「専門的に考えて、文部科学省のデータを引用した。」と発言する。 「先日新聞で読んだ、親の貧困率についての情報を引用し、違う視点から書いて説得力を高めようとした。」と発言する。 	<ul style="list-style-type: none"> テーマ「集団的自衛権はあっていいのか」に対する評価の理由を発表している。 「双括型で、最初と最後に自分の考えを置くことで自分の考えを強く相手に伝えたい。」と発言する。 「引用が三つあり、多すぎないか。」とアドバイスされる。 「引用部分をどこに入れるのがいいか。」と質問をし、議論になる。 「賛成と反対と、どちらの意見を先に述べても説得力は変わらないのかもしれないが、この場合、自分の立場の意見から述べた方が説得力があると思う。」と発言する。 	<ul style="list-style-type: none"> テーマ「スポーツは勝敗にこだわるべきか」に対する自分の考えを発表している。 「分かりやすいから双括型を選んだ。」と発言する。 引用する根拠が書けずにいたので、自分から質問をする。 「なぜ、この部分を引用したいのか。」と質問を返され、うまく答えられずにいる。 「同じような内容の引用部分はいらないのではないか。」と指摘を受ける。 「論の流れは説得力がある。」、「まとめ方が上手。」と言われ、うれしそうにする。 グループの友達の発表に対し、質問する。
(2) 全体で、ディスカッションする。	<ul style="list-style-type: none"> 引用のポイントを、グループで一つ見つけてホワイトボードに書いている。 各グループから出た引用のポイントを、全体でディスカッションしながら分類している。 引用のポイントを、「引用ガイド」に書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「納得できる根拠・情報、グラフやデータも使うと良い。」とグループの意見をまとめる。 「公的機関の情報など、誰が聞いても納得できる信頼性の高い資料を選ぶことが説得力につながる。」と全体で発言する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「引用によって相手をどう思わせるかを考えることが大切。」と発言する。 他のグループに質問をする。 自分のグループの意見に対する質問があり、「自分の考えを下から押し上げるみたいな、」と説明するがうまく言葉にできない。 	<ul style="list-style-type: none"> グループの友達がホワイトボードに記入する際に、「うまく引用しないと伝わらない。」と発言する。 全体でのディスカッションを、うなずきながら真剣に聞いている。
6 構想メモを完成させる。	<ul style="list-style-type: none"> 修正点を整理し、色ペンを使って、構想メモに加筆、修正している。 	<ul style="list-style-type: none"> 引用部分について、「難しい語句を分かりやすく解説する。」と書き足している。 	<ul style="list-style-type: none"> 引用部分の三つの候補から二つに絞り、自分の考えとつながるように補足をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 引用する根拠を書き入れている。
7 本時の振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> 本時を振り返り、参考になった点や新たに気付いた点を書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「説得力をもたせるためには信頼性の高い資料を引用することが大切。補足することも必要。」と書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「引用をうまく取り入れることで自分の考えを強く相手に伝えることができることが分かった。」と書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「引用のポイントが分かった。便利だと思った。」と書いている。

は、論理の展開を工夫し、資料を適切に引用して、説得力のある文章を書くことに関する姿である。

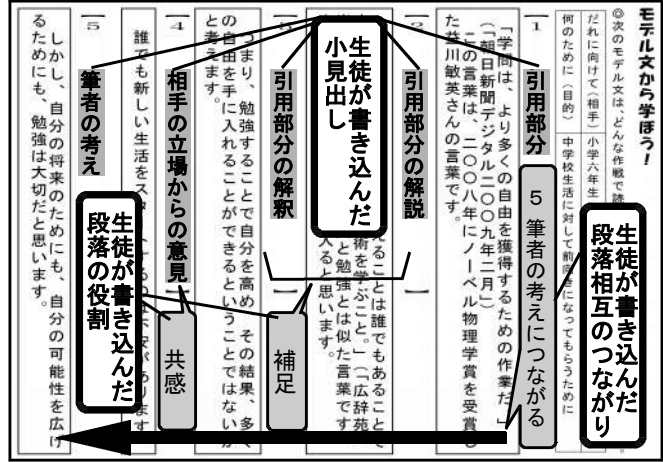
(4) 授業の分析と考察

ア 引用した根拠を明確にして批評文を書く学習活動について

(ア) モデル文を活用して引用した根拠を考える活動

モデル文を活用した学習後に、引用のきまりを理解できたかについて確かめる、「引用間違い探し」を行った。これは、原文を正確に引用できていない点や出典が不明な点、資料の信頼性に欠ける点などを指摘する演習問題である。5問すべて正解した生徒は33人中29人であった。資料3は、提示したモデル文に、生徒が

資料3 生徒が書き込みをしたモデル文



小見出しや段落相互のつながりなどを書き込んだものである。資料4は、学習後に書いた振り返りカードの記述例である。説得力を高めるために筆者はどのような工夫をしていたかを評価し、モデル文の引用のよさについて、全員が記述できた。この結果から、モデル文を活用して引用した根拠を考える活動を通して、引用の仕方にはきまりがあることと、引用を取り入れて説得力をもたせる工夫をしていることに気付いたということがうかがえる。以上のことから、目指す生徒aの姿に迫るために、有効な手立てであったと考える。

資料4 引用のよさについての振り返りカードの記述例

- ・筆者は伝える相手が小学6年生であることを考えていた。伝えたい相手に応じて引用する文章を考えることが説得力につながった。
- ・特に二段落目、三段落目がないと分かりにくい。引用部分を生かすために、自分の考えとつながりを分かりやすくする補足を入れていてよい。
- ・ノーベル賞を受賞した人の言葉には説得力があるので、専門家の意見を引用しているところがよい。

(イ) 引用する根拠を、ディスカッションする活動

資料5は、構想メモに引用する根拠として書いた生徒の記述例である。引用することによってねらう効果について、33人中24人の生徒が記述していた。資料6は、ディスカッション後に、色ペンで構想メモへ加筆、修正をした記述例

資料5 構想メモに引用する根拠として書いた生徒の記述例

- ・信頼性の高い資料から引用して、相手に納得してもらおう。
- ・話題提示として引用部分を最初の段落に入れる。
- ・自分と違う立場からの意見を引用し、それを反論することで、自分の考えを相手に受け入れてもらえるようにする。
- ・中立の立場からの視点を入れて、読み手に考えさせることで説得力をもたせる。

である。引用部分を差し替えたり、補足を付け加えたりして、引用する根拠について再検討することで、全員が記述できた。この結果から、ディスカッションする活動を通して、引用部分と自分の考えのつながりが相手を納得させるものになっているかを吟味し、説得力をもたせる引用の効果について考えを深めていたということがうかがえる。以上のことから、目指す生徒bの姿に迫るために、有効な手立てであったと考える。

資料6 ディスカッション後に加筆、修正した記述例

- ・引用する量が多すぎるから、短くする。
- ・つながりが薄いから、違う引用部分にする。
- ・引用部分の難しい言葉を簡単な言葉にして説明する。
- ・自分の考えとのつながりがもっと分かりやすいようにするために、補足を入れる。

際には、「国際協力」というキーワードを設定し、引用部分と自分の考えのつながりを意識して文章を書くことができた。生徒Cは、事前調査では自分の考えのみを書いていた。批評文を書く際には、信頼性の高い資料を選び、引用部分を見付けた。また、引用部分に補足を付けることができ、説得力をもたせるための工夫をした。

資料9 抽出生徒Cの批評文と引用した根拠（抜粋）

で、説得力をもたせた。	引用した根拠	方によいと考えた。	なら、勝敗にこだわり、本気でやった	見て、（中略）・スポーツをやると、勝敗にこだわり、本気でやった	こともできると思う。私もラグビーを	でスポーツを行うと、人に夢を与える	と書いてあった。夢を追いかけた本気	し、夢を追いかけた。夢を追いかけたこと	（学研教育出版 二〇〇七年二月）と	一方、「勝利とスポーツマンシップ	だと思っ。確かに、（中略）・大切	であった。確かに、楽しむことも大切	辞典（三省堂）には、スポーツとは、	いという人もいるだろう。新明解国語	チームの仲間と、勝敗にこだわるべき	にこだわるべきだと思っ。なぜなら、	べきか」について考えた。私は、勝敗	私は、勝ち負け
-------------	--------	-----------	-------------------	---------------------------------	-------------------	-------------------	-------------------	---------------------	-------------------	------------------	------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	---------

以上のことから、抽出生徒A、B、Cは論理の展開を工夫し、資料を適切に引用して、説得力のある文章を書く能力が身に付いたと考える。

5 研究のまとめ

本研究を追究した結果、次のことが明らかとなった。

- (1) モデル文を活用して引用した根拠を考える活動は、筆者が引用を取り入れて説得力をもたせる工夫をしていることに気付くことができ、引用のきまりや引用のよさについて理解することに有効であった。
- (2) 引用する根拠を、ディスカッションする活動は、引用する根拠が相手を納得させるものになっているかを確認する場となり、引用部分と自分の考えのつながりについて吟味し、効果的な引用について考えを深めることに有効であった。
- (3) 構想メモを活用して批評文を書く活動は、引用した根拠が読み手に伝わるように工夫することとなり、論理の展開を工夫し、引用した根拠を踏まえて、批評文を書くことに有効であった。

以上のことから、引用した根拠を明確にして批評文を書く学習活動は、論理の展開を工夫し、資料を適切に引用して、説得力のある文章を書く能力を育てることに有効であった。

6 今後の課題

説得力のある文章を書くためには、客観的、分析的に物事を見つめて、論理的に考える力が大切であり、他領域と関連付けて指導していく必要がある。

〈引用文献〉

- 文部科学省 「中学校学習指導要領解説国語編」平成20年9月
 文部科学省 「全国学力・学習状況調査の4年間の調査結果から今後の取組が期待される内容のまとめ」平成24年9月
 大内善一著 「思考を鍛える作文授業づくり」明治図書 平成6年1月
 明治図書 「国語教育」平成26年11月 富山哲也執筆 128～129ページ
 明治図書 「実践国語研究」平成23年7月 鶴田清司執筆 19～20ページ